

## スイッチOTC化で中間案 薬剤師が重要な役割担う

厚生労働省

厚生労働省は2020年12月2日、「医療用医薬品から要指導・一般用への転用に関する評価検討会議」でスイッチOTC化の要望と議論を効果的、効率的に行うための中間取りまとめ案を示した。要指導・一般用医薬品では薬剤師が服薬指導・薬剤選択、フォローアップを担うなど重要な役割を担うとし、スイッチ化が可能な医薬品については使用者自身が症状を判断できるアレルギー性鼻炎治療薬などを候補に挙げた。

中間取りまとめは、検討会議で議論となった事項などをまとめ、スイッチ化の要望と議論を効果的、効率的に行うことが目的。骨子案の議論を踏まえ、論点や課題を記載した中間取りまとめ案として明示した。

中間案では、スイッチOTC化により、医療用医薬品から転用されて薬局などで販売されるようになることで、各ステークホルダーの責任を明確化した。医療用医薬品では医師が診断・処方を行い管理するのに対し、一般用医薬品は使用者自身、または薬剤師による管理とした。薬剤師は使用者への服薬指導や薬剤選択などでも重要な役割を担うと明記した。

また、使用者である国民に対しても、薬剤師に症状や服薬状況などの個人情報と正確に伝達し、医薬品を自己選択することへの責任などを求

めるとした。スイッチ化が可能な医薬品については、使用者の状態や変化に応じて、医師による薬剤選択や用量調整を必要としない薬剤であることを要件とした。使用者自身が症状を判断することが可能で、使用者自身の判断で適正に短期間使用することが可能な医薬品などを候補とし、アレルギー性鼻炎薬や解熱鎮痛薬、過敏性腸症候群（IBS）治療薬を例に挙げた。

この日の会議では、スイッチOTC化をさらに推進していくために薬剤師と医師との情報連携のあり方をめぐって議論が行われた。小縣悦子構成員（日本女性薬剤師会副会長）は、医師と薬剤師間の検査情報共有化に言及。「処方箋以外の共通資料として検査情報があれば、患者の状況を知った上で一般用医薬品を使うのか、もう一度病院の医師に相談するのが判断できるため、盛り込んでもらえるとうれしい」と要望した。

笠貫宏座長（早稲田大学特命教授）は「スイッチOTC化を推進していく上で各ステークホルダーが連携していく環境づくりは重要」と指摘。検査情報の共有化も「スイッチ化の課題整理に向けた一つの事例になる」との見方を示した。

（2020年12月4日掲載）

## オンラインで処方薬注文 有料会員には無料配送も

米アマゾン・ドット・コム

米アマゾン・ドット・コムは米国時間の2020年11月17日、米国内でオンラインで処方箋の注文を受け付け、自宅に配送するサービスを開始した。アマゾンの有料プライム会員には無料で薬を迅速に配送し、保険未加入者に対しても割安で薬を販売する。2018年に処方薬を一包化するオンライン薬局「ピルパック」を買収しており、今回のサービスを開始することでオンライン薬局市場への本格参入を図る構えだ。

顧客は、オンライン上のアマゾン薬局を通じて、購入可能な先発品、後発品、剤形や投与量などを確認でき、スマートフォンやウェブ上からアマゾン・ドット・コムにアクセスし、簡単に薬を注文することが可能。顧客が指定する住所に配送され、アマゾンのプライム会員は、アマゾン薬局に参加する米国内の5万以上の薬局から薬を無料で受け取ることができる。

アマゾン薬局では、医療保険を使

った場合と医療保険を使わなかった場合の自己負担額を比較できるようにし、最低価格のオプションを選択できるようにした。保険未加入者でも先発品であれば最大4割引、後発品は最大8割引で購入が行うことができ、ウェブからの薬購入による利便性だけではなく、薬代の節約にもつなげる。オピオイド薬など管理が必要な薬剤は取り扱っていない。

また、ウェブ上から保険情報の追

加や処方箋の管理などを簡単に行うことができ、薬についての相談はオンライン上で薬剤師が24時間年中無休で対応する。

アマゾンは18年6月、慢性疾患に対する複数の治療薬を一包化して提供する「ピルパック」を買収。ネットで処方箋を受け付け、1回の服用分を小分けに包装して配送するオンライン薬局サービスに参入した。

（2020年11月20日掲載）

## 考えよう！ キャリアデザイン



キャリア・  
ポジション社長

西鶴 智香

私はキャリアカウンセラーという資格者ですが、仕事に悩み、迷っている薬剤師が納得のいくキャリアを選択するための支援をする専門家として、現在まで20年、数多くの薬剤師の方々にお会いしてきました。

近年、薬剤師からの相談では、「今後、生き残れる薬剤師になりたい。今から何を準備すればいいか」という内容が増えていました。特に2020年は新型コロナ

ウイルスへの感染不安から医療機関での受診を控える患者が増えたことで、病院や会社の業績悪化、オンライン診療やオンライン服薬指導が本格開始されるという目に見える変化、また、数年以内に患者情報の一元管理や電子処方箋の開始等が明示され、「どうやら今後、薬剤師に求められるスキルは大きく変化しそうだ」と感じて相談に来られる方が増えているのだと思っています。調剤業務などは目に見えて機械化が進んでいますので、「単なる資格保有者」では生き残れないだろうと危機感を持っている薬剤師は多いのです。

今や薬剤師の業務は、病院では、入院患者の適切な薬物治療に関わりを持ち、薬の専門家として医師との連携が求められ、薬局では、患者の

「かかりつけ薬剤師」になること、高齢者を中心とした在宅医療を担う仕事に変わっています。調剤業務を中心とした薬剤師の仕事から、大きく方向転換していることがわかります。

私が就職した1990年は金融やSE職が大人気の時代でしたが、その人気は数年で終わり、その後はメーカーの人气が復活しました。世の中は常に変化しています。今や日本の企業の多くがグローバル展開で、ドラッグストアも海外に展開しています。これから大学を卒業して、どういう仕事をしたいのか。今、世の中にある仕事ばかりに目を向けず、日本の将来像に見通しを立ててみて、どういう仕事か求められそうか、考えてみるといいでしょう。

よく言われるように「薬学部に入学したのだから、薬剤師になるのは当然」でしょうか？実際に、病院や薬局、製薬企業以外の進路を選んでいる先輩たちはたくさんいます。将来を見通し、医療関連アプリの開発、オンライン医療等のコンサルティング、会社を設立した先輩もいます。キャリアデザインに正解はありません。卒業までじっくりと考えてみて下さい。

卒業前に再認識したいこと  
② 日本  
の将来を見通す力

薬 のことなら 薬事日報ウェブサイト

「薬学生新聞」もウェブサイト公開中!!

<https://www.yakuji.co.jp>

薬事日報

検索